



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 379

Februar 2023

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

ご 報 告

NPO法人神戸日独協会会長 栢田 義一

前月号にて協会運営・財政の改善のために、本年は事務所の移転をはじめ運営組織の改善など大きな改革を予定していると述べましたが、その後の経過をご報告致します。

今月に開催しました理事会にて事務所移転が最終的に決定しました。移転に伴う最終契約等は来月早々に行い、現在の事務所から徒歩5分ほどの近辺の地へ6月上旬に移転の予定です。

事務所移転については、単に財政上の改善のみならず、この転居を協会の組織、運営、活動を見直し改善する機会としたいと思っています。この転居により事務所経費の軽減とともに新しき施設・環境設備等々により協会のこれまでとは異なる展開が可能となります。

理事会と執行部に於いてこのことを念頭に現在移転準備を行っています。移転先は現在と比して若干狭くなりますが、講座・教室及び小会議用部分の現状維持と事務用部分及び図書架の縮小を検討しています。事務用部分は元来より事務員2名体制を前提にしたものであり、事務員1名体制と書類等のデータ化促進により縮小をすることにしました。一番の懸案は図書類の削減です。神戸日独協会の事務所は戦後間もなくドイツから寄贈を受けた図書類のためのドイツ図書室が原点ですので、かつては多くのドイツ関係の図書やレコードを所有していました。大震災による退去の際に近隣の日独協会に多くを譲渡し、現在は一般の図書館では見られないドイツ関係の写真集と書籍のみ保存して会員の閲覧に供してきました。しかし昨今の書籍のデータ化の進展などにより閲覧利用は激減していますので、この際に所蔵図書類を大幅に削減して、削減により生じる空間を会員の利便性に供したいと思っています。

またこれまで部屋の諸制約のために中断してきました音楽関係の講座・教室の復活や新設を予定しています。

つきましては、これから転居作業を開始する前に会員皆様から転居を機とした協会の組織・運営・活動及び新事務所の使用形態などについてご意見をいただき、移転に反映させたいと思います。是非とも月例懇談会などでご意見をお願い致します。

会員の広場

このコーナーは、会報を通して会員相互の交流をしていただくための「広場」です。ご投稿をお待ちしています(投稿規定①MSPゴシック12ポイント、②A4×1枚程度(字数厳守)、③ワードの添付データにて、④締切:毎月第3水曜日)。

イエナ便り —大学院のゼミナール—

会員 竹中らら(イエナ在住)

大学院での学習は3セメスターに入り、今学期は4つのゼミナールを受講し、それに平行して小学校で教育実習を行いました。今回はそのうちの“Theorie und Empirie der Begegnung von Kulturen“というゼミで学んだ内容について書きます。

この授業では、異文化コミュニケーションに関わるテーマを毎回一つずつ取り扱います。例えば、Geert Hofstedeの「Kulturdimensionen」、Kalvero Obergの「Kulturschock」、John W. Berryの「Akkulturation」というように、まずは学者が唱えた理論を学びます。予習段階で、テキストを読むことに加え、関連するビデオを視聴したり、学習プラットフォームで学生同士で理論に関わる自身の体験などを投稿したりします。ゼミではその理論をどのようにドイツ語教育(DaFの授業)に応用できるかを話し合い、実際に授業をシミュレーションしたり、グループワークやペア学習を通して意見交換をします。

多数のテーマの中で印象に残ったのは Alexander Thomas という学者の「Kulturstandards」という理論です。Thomas によると、各文化にはそれぞれのスタンダードが存在し、それを基準によって人々の思考や行動が決定されます。例えば、ドイツの Kulturstandards は Wertschätzung von Strukturen und Regeln (物事の仕組みルールを重要視する)、Trennung von Persönlichkeits- und Lebensbereich (個人生活と仕事などの他の生活分野が分離されている)、Schwacher Kontext (コミュニケーションで率直さや明快さが重視され、その場のコンテキストはあまり意味を持たない。事実が直接的に説明されるので、追加情報をコンテキストから解釈しなくても相手のメッセージが理解できる) などです。異なる Kulturstandard をもつ人同士が接触し、お互いの思考や行動基準が理解されない場合に異文化コミュニケーションの問題が生じます。例として、ドイツとは対照的に Starker Kontext の文化圏(日本や中国)においては、コミュニケーションでその場の文脈から相手の意図を読み取る必要があります。そのためこのような基準を持つ人がドイツ人とコミュニケーションする場合、ドイツ人が事実をはっきりと述べるため、意図されたわけではないのに彼らが相手の感受性を考慮しておらず、傷つけられたように感じられることがあります。

実際にドイツで生活をしていると、このような場面に遭遇することがよくあります。そのため、ドイツ語学習者がこのような文化に関わるコミュニケーション形式を学ぶことは意味があります。一方でこの理論は異文化における「差異」に着目しており、異文化間の共通性については触れられていません。従って文化の違いのみを強調するのみならず、異なる文化の橋渡しをする役割のある共通性についても考察する必要があります。このゼミナールで、将来ドイツ語の授業を行う際の重要な視点を学ぶことができました。

ドイツ語談話室

第219回ドイツ語談話室

日時：2023年1月21日(土) 14:00～16:00

場所：神戸日独協会会議室

テーマ：2023年(うさぎ年)への期待

今回の司会は、ドロテア合田さんが担当され、新しい年、うさぎ年にちなんで日本語の勉強をさらに進めたい、と抱負を述べられた。次に、今回のドイツ語談話室に、ドイツ総領事のエバーツご夫妻をお招きしたことを述べられ、お二人に、日本についての印象を尋ねられた。ご夫妻はまず、日本人はとても規律正しく親切で、街は清潔に保たれ、とても快適であるとの印象を話された。一方で、日本の外国語教育は進んでいるとの認識から、街で日本人に英語で話しかけると返事をためらう人が多いことも話された。これまでご夫妻は7カ国で勤務され、特に奥様にとってはかなり多忙な生活であったとの事。エバーツ氏は、ドイツ語を学ぶ上で、ラテン語の知識がとても役立つと思うと話された。エバーツ氏はまた参加者の皆さんに、ドイツに対して関心を持たれたきっかけについて聞かれた。

以下に、参加者の皆さんの発言の一部を紹介する。

- ドイツ語圏のスイス企業に勤めていて、ドイツに興味を持つようになった。新年への期待は、孫が生まれたこともあり、現在のパンデミックの早い終息を願う。
- ドイツとは小さい時から関わりがあり、1970年の大阪万博ではドイツ館でお手伝いをした。今年の希望としては、そろそろ終活を始めたいと考えている。
- うさぎ年に関連して、台湾で食べた煮込み料理がとても美味しかったが、後でうさぎの肉が入っていたことが分かった。でも、本当においしい料理であったことを思い出す。
- アラブで食べた料理に、後でわかった話だが、ラクダの肉が入っていた。でも、とても美味しいお料理だった。
- 今年の希望は、やはり健康第一に過ごすこと。また、今年はロシアの侵略戦争が第3次世界大戦へと拡大することが懸念されるが、是非これを避けられることを期待する。
- 小さいころピアノを習っていて、ドイツの作曲家やドイツに大変興味がわいた。いま、旅行ガイドの仕事をしていて、今年はぜひ再びドイツへ行けるようになることを期待している。
- 学生時代ドイツに留学していて、ドイツに深く興味を持った。子供の頃ピアノを習っていたこともドイツに興味を持つきっかけ。今年もうさぎ年にちなんで、穏やかな年であることを期待する。
- 長年スイスのドイツ語圏にある企業に勤めて、ドイツに興味を抱いた。今年の期待は、まずCOVID19が終息すること、ロシアの侵略戦争が第三国の仲介で終息すること、さらに、自身うさぎ年生まれなので、穏やかに健康で過ごせること。

今後のドイツ語談話室の予定：

第220回 2023年2月18日 14:00～16:00 テーマ：私の好きな芸術的催し物

第221回 2023年3月18日 14:00～16:00 テーマ：日本の新しい18歳成人の日について

Protokoll der 219. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag, 21. Januar 2023, 14 bis 16 Uhr

Thema: Meine Hoffnungen für 2023, das „Jahr des Hasen“.

Dieses Mal hatte Frau Dorothea Goda die Gesprächsleitung und erzählte, dass es ihr Vorsatz für das neue Jahr sei, weiter Japanisch zu lernen. Danach stellte sie den deutschen Generalkonsul, Herrn Eberts, und seine Gattin vor und fragte nach deren Eindrücken in Japan. Beide finden Japan und seine Bewohner sehr nett und geordnet, die Städte sind sauber und sehr angenehm. Wenn man jedoch Fragen auf Englisch stellt, stocken manche Leute bei der Antwort, obwohl Englisch in den Schulen als Fremdsprache unterrichtet wird. Bisher waren sie in sieben Ländern beschäftigt. Herr Eberts wies darauf hin, dass Kenntnisse in der lateinischen Sprache beim Erlernen der deutschen Sprache hilfreich sein kann, und er stellte die Frage an alle Teilnehmerinnen und Teilnehmer, wie es dazu kam, dass sie Interesse an Deutschland und der deutschen Sprache fanden.

Hier einige der Wortmeldungen zum Thema:

- Ein Teilnehmer arbeitete bei einer Firma in der deutschsprachigen Schweiz und fand auch großes Interesse an Deutschland. Was das neue Jahr betrifft, so hat er ein Enkelkind bekommen und hofft auf ein schnelles Ende der Pandemie.
- Eine Teilnehmerin steht seit ihrer Kindheit in verschiedenen Beziehungen zu Deutschland. So konnte sie z.B. bei der Weltausstellung 1970 in Osaka im deutschen Pavillon mitarbeiten. Ihr Vorsatz für dieses Jahr ist es, sich um die eigene Altersvorsorge zu kümmern.
- Im Zusammenhang mit dem "Jahr des Hasen", erinnert sich eine Teilnehmerin an ein leckeres Gericht in Taiwan, bei dem auch Hasenfleisch enthalten war.
- Eine weitere Teilnehmerin berichtete daraufhin von einem ähnlichen Erlebnis. In einer arabischen Stadt hatte sie ein leckeres Gericht gegessen und erfuhr später, dass darin Kamelfleisch enthalten war.
- Die Hoffnungen eines Teilnehmers richten sich ganz darauf, gesund zu bleiben. Es bestehen dieses Jahr auch weiterhin Kriegsgefahren, vor allem das Risiko eines dritten Weltkriegs muss unbedingt abgewendet werden.
- Eine Teilnehmerin bekam als Kind Interesse an Deutschland, als sie begann, Klavier zu lernen. Sie arbeitet als Reiseführerin und hofft so, dieses Jahr wieder nach Deutschland fahren zu können.
- Eine Teilnehmerin studierte in Deutschland. Auch bei ihr war als Kind das Klavierspielen ein Anlass dazu, an Deutschland Interesse zu finden. Was das "Jahr des Hasen" betrifft, so hofft sie vor allem, dass es ruhig verläuft.
- Ein Teilnehmer arbeitete lange Zeit bei einer Firma aus der Schweiz, woraus sich auch

sein Interesse an Deutsch und Deutschland begründet. Seine Hoffnungen für dieses Jahr sind vor allem, dass die Pandemie ein Ende findet, dass der russische Angriffskrieg in der Ukraine vielleicht über Vermittlung eines Drittlandes beigelegt werden kann, und dass alle das "Jahr des Hasen" bei Gesundheit in Ruhe genießen können.

Nächste Treffen:

Samstag, 18. Februar 2023, 14 bis 16 Uhr, Thema: Welche künstlerischen Veranstaltungen besuche ich gerne.

Samstag, 18. März 2023, 14 bis 16 Uhr, Thema: Die neuen Volljährigkeitsfeiern in Japan nach Herabsetzung des Volljährigkeitsalters von 20 auf 18.

Stammtisch mit Zoom

滞在型バカンスの勧め：原田耕作さん

原田耕作さんは現在も神戸日独協会の参与として財務をご担当いただき、常日頃から大変お世話になっています。以前、原田さんのヨーロッパ旅行は滞在型とお聞きして、詳しくお聞きしたいと思い、今回ご登場いただきました。

原田さんはヨーロッパ系の企業に長年勤めておられ、長期休暇の取りやすい環境で、在職中も1～2週間のバカンスをとり、退職後は3～4週間の滞在型バカンスで、ヨーロッパ9ヶ国、20の町や村で過ごされたとか。滞在型バカンスだと、一カ所に腰を落ち着けてゆっくり美術館や博物館に行ったり、ハイキングをしたり、ゴルフをしたり、近くのマーケットで旬の野菜や果物を買ったり…と、滞在型ならではの色々なメリットがあります。

まずは Ferienwohnung, Holiday house の探し方。

1. 滞在希望都市の Tourist Office に問い合わせる。特にスイスの Tourist Office は親切。
2. Internet で調べる。Home Away, Holiday lettings (二つとも英語のサイト)、Mountain Base (シヤモニー)、Abritel (フランス語のサイト) 等々。
3. 海外ロングステイ財団：東南アジアに詳しい

次に滞在施設の種類

1. アpartmentホテル(都市型)：ホテルに併設されたタイプはミニキッチン、ミニ冷蔵庫等がついて、ホテルのフロントやレストランが使える便利だが、狭くて高いのが欠点。長期滞在用のアpartmentホテルはもっと広く、簡単なキッチン、冷蔵庫、洗濯機付もある。原田さんが Marseille で滞在したアpartmentホテル Citadines Aparthotel は Marseille 駅より地下鉄で5分、徒歩5分、バス停より徒歩3分の便利な所にあつて、40㎡の広さ、3週間で1519Euro (約18万円、2008年)
2. マンション(都市型とリゾート型)：通常のマンションと同じで、自宅で生活する感じ。オーナーが企業と個人のタイプがある。企業がやっている場合はフロントがあり、連絡がスムーズ。個人だと直接オーナーと連絡を取り合う必要がある。原田さんが Antwerp で滞在した個人タイプのマンションは中央駅より徒歩10分、市立公園を過ぎてすぐの所。近くで土曜日・日曜市が立ち、小鳥の市や骨董のオークションもあった。広さ約120㎡のバルコニー付、4週間で2200Euro、プラス Final cleaning 65Euro (約23万円、2012年)、ガス・電気はメーターで実費精算。

3. ホリデーハウス・シャレー(郊外型・リゾート型):個人のオーナーが観光局や代理店に登録しているケースが多く、紹介してもらい、連絡をとる。多いのはオーナーが所有しているシャレーの One Floor を借りるタイプで、ファミリー用が主流。Wengen(標高1270m、スイス・ベルナーオーバーランド地方)で滞在した個人のシャレーは Interlaken から登山鉄道で Wengen 駅下車、徒歩5分。広さ100㎡で暖炉付、4週間で2, 890Sfr プラス Final cleaning100Sfr(約27万円、2009年)

このオーナー家族とは今でも交流があるそうです。

(理事 押尾 愛子)

3月の Stammtisch mit Zoom のお知らせ

日 時: 2023年3月18日(土)午前10時~11時

話題提供: 神戸日独協会会員 井川 伸子 さん「高校生にドイツ語を教える」

紹介: 現在、兵庫県下でドイツ語の授業がある高校は、国際高校、芦屋国際中等教育学校、県立西宮高校音楽科の3つだけだそうです。神戸日独協会会員の井川 伸子さんは県立西宮高校音楽科でドイツ語を教えておられます。井川さんが教えるようになった経緯、高校で教えるドイツ語について等、お話しいただきます。(理事 押尾 愛子)

神戸日独協会 Stammtisch mit ZOOM

<https://us02web.zoom.us/j/85366355191?pwd=N05kSTl1bIVkYkNqc2kvQmd5VjlpPQT09>

ミーティングID: 853 6635 5191 パスコード: 393924

Stammtisch mit Wein

3月の Stammtisch mit Wein

日 時: 2023年3月18日(土)17:30~19:30

場 所: 神戸日独協会会議室

話 題: 図書架の写真集を活用しての「私の好きなドイツの街」自慢

会の名称からワインを飲む会ではありません。ドイツでの Stammtisch のようにお好きな飲み物を取りながら、気楽に会員同士のご歓談をお楽しみいただく会です。奮ってご参加ください。

出席いただける方は、事務局へ電話・メールにてご連絡ください。当日参加も可。

3月の月例懇談会開催のお知らせ

この会は協会と会員との交流のための懇談会です。是非とも参加し、協会の運営や企画などにご意見をください。

日 時: 2023年3月18日(土)16:10~17:15

場 所: 神戸日独協会会議室

話 題: 協会事務所の移転と移転後の事務所の形態について

大事なテーマですので是非ともご意見を願います。

ご出席いただける方は、事務局へ電話・メールにてご連絡ください。当日参加も可。

お悔やみ

会員の方が逝去されました。

北沢 誠太郎 さん 2022年12月

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りします。

協会ではご遺族からご連絡をいただいて、ご通知しています。

会報印刷・発送ボランティア募集

会報の印刷と発送を手伝ってくださる方を募集しております。是非ともお手伝いをお願いします。次回の印刷と発送は3月27日(月)を予定しています。お手伝いいただける方は事前に事務局へご連絡下さい(TEL 078-230-8150)。

印刷： 兵庫県国際交流協会作業室(神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号

国際健康開発センター2階、県立美術館西隣)にて、10:30より1時間半程度

発送： 神戸日独協会にて、12:00～

これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込〆切 など
3月18日(土) 10:00~11:00	Stammtisch mit Zoom	神戸日独協会会議室	当日参加可
3月18日(土) 14:00~16:00	ドイツ語談話室	神戸日独協会会議室	当日参加可
3月18日(土) 16:10~17:15	月例懇談会	神戸日独協会会議室	当日参加可
3月18日(土) 17:30~19:30	Stammtisch mit Wein	神戸日独協会会議室	当日参加可